SDGs未来都市等進捗評価シート

鹿児島県徳之島町

2020年9月

SDGs未来都市計画名	徳之島町 ＳＤＧｓ未来都市計画

SDGs未来都市等進捗評価シート

2019年度

1．全体計画

計画タイトル	鹿児島県　徳之島町　SDGs未来都市計画　あこがれの連鎖と幸せな暮らし創造事業
2030年のあるべき姿	世界自然遺産候補地である貴重な自然環境とそれらと共存してきた人の暮らし・文化を島に暮らす私たち自身が再評価し、人と自然環境との共存という現代世界の抱える課題への挑戦事例を提供できる地域社会が実現している。 また、大学進学等で一度は島外転出する若い世代が「島でやってみたい仕事があるので、大学を卒業したら島に帰る」、「都会で修業したあとは島に戻り、起業する」、「徳之島は私のリゾートオフィスであり、第二のふるさとでもある」等の声が多く聞かれる「あこがれの連鎖」が絶えないチャレンジの島となっている。

2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール	経済	社会	環境
	ゴール８　ターゲット8.2，8.3 ゴール９　ターゲット9.4，9.b	ゴール４　ターゲット4.3，4.4 ゴール11　ターゲット11.7	ゴール12　ターゲット12.8 ゴール14　ターゲット14.1，14.2

優先的なゴール、ターゲットに関するKPI

#	指標名　※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2030年	進捗状況や課題等（定性指標や補助指標等を含む）
1	島内在住のテレワーカー数	2019年3月　0 人	2030年　30 人	WebデザインやWebライティングの人材育成事業でテレワーカーが生まれた。新型コロナウイルスの影響で仕事の形態が変化してしるため、今後テレワーカーの需要は増えてくるものと思われる。(2019年度5人)
2	エコビレッジの商品開発数	2019年3月　0 件	2030年　21 件	現時点で商品はないが、今後は研究開発できる事業者と連携することで、商品開発の可能性を増やしていきたい。(2019年度０件)
3	町主催での学校外におけるプログラミング教室数	2019年3月　1 教室	2030年　3 教室	現在は「みらい創りラボ」井之川のみで教室を開いている状況である。初等教育によるプログラミング授業の必修化に伴い今後プログラミング教室の需要は増えてくるものと思われる。(2019年度1教室)
4	シマ（集落）の高齢者の自生植物栽培への参画者割合	2019年3月　0.0 %	2030年　90.0 %	現在、一部の集落において参画者を募っているところではあるが、SDGsへの理解や関連事業の参画については低いため課題となっている。(2019年度9.4%)
5	われんきゃ（子ども）エコツアーガイド育成プログラム実施数	2019年3月　3 小学校区	2030年　8 小学校区	われんきゃガイドについては、３小学校で実施しているところである。今後、環境教育等を実践し子ども達の「ふるさと愛」を深めていきたい。(2019年度3小学校)
6	赤土等の流失防止ほ場等数	2019年3月　0 箇所	2030年　12 箇所	赤土等の流失防止ほ場については、自生植物のものはなく効果的なものであることが実証できれば今後箇所を増やしていきたい。(2019年度1箇所)

行政体内部の推進体制

■各種計画への反映状況や課題

徳之島町まち・ひと・しごと創生総合戦略へはSDGsについて横断的な目標として位置づけているが、徳之島町総合計画やその他の計画には反映されていないため、計画の策定や変更時に随時反映していく予定。

■行政体内部の執行体制及び首長のリーダーシップ

徳之島町SDGs推進本部、プロジェクトチーム、徳之島町施策等効果検証委員会の連携が今後必要不可欠である。

人づくりを政策の柱としてきた経験や島の有している価値観を未来につなぎ、多様な主体とのパートナーシップを構築し、SDGsの『誰一人として取り残さない』という重要理念及び経済・社会・環境の一体となった取り組みを推進する徳之島町SDGs推進宣言がなされた。(令和2年2月14日)

自治体SDGsの情報発信・普及啓発の取組状況・課題

■情報発信・普及啓発

これまでに島嶼SDGsキックオフシンポジウムにおいて都市部企業へのワーケーション誘致や首都圏の郷友会へ本町のSDGsに対する情報発信を行ってきた。

また、人と環境にやさしいまちづくり条例に基づく生ごみの堆肥化に向けた実証等を独自に実施したり、徳之島みらい創りプロジェクト(「徳之島町みらい創り対話会」、「みらい創りＣＡＭＰＵＳ」)において、参加した住民がそれぞれの課題について解決するプロジェクトを企画・立案し、個人単位・グループ単位でのSDGs目標達成に向けた具体的な活動を実施してきた。

このような取り組みを徳之島町広報誌、SNS媒体等により紹介しており、今後本町のSDG s に対する取り組みが本格化した際には、Wixや動画素材コンテンツ等による情報発信は必要不可欠なものと考える。

これらの活動に参加されていない多くの住民にSDGsの取り組みについて理解を深めていただき、他人事ではなく自分事として小さなことから取り組んでいけるような環境づくりを推進していきたい。

ステークホルダーとの連携

■ステークホルダーとの連携

みらい創り対話会や歩行ラリー、ワーケーション実証等において、域内外の主体と連携して活動してきた。

今後は、SDGs推進の拠点施設として位置づけている「みらい創りラボ」井之川を活用し、ニューノーマルに適応した体制をいかに整えるかが喫緊の課題となっている。

現時点で国内の自治体や海外の主体との直接的な関わりはないが、今後本町のSDG s に対する取り組みが本格化した際には、十分な発信源となりえる。

地方創生・地域活性化への貢献

■地方創生・地域活性化への貢献

クリエイティブファクトリー構築事業においては、コワーキングスペース「みらい創りラボ」井之川を、島内外の様々なプレイヤーが集う島の未来を共創する拠点としている。本拠点において、テレワークの推進やイノベーション教育による人材の育成、ワーケーションによる都市部企業と連携を図ることにより地域の活性化へ貢献する。

「おかげさまサイクル」でつなぐエコビレッジコミュニティの再興においては、コミュニティデザイナーの役割を担う集落支援員を登用し、自生する有用植物(ヨモギ・月桃・シナモン等)を植生し、その栽培・管理・収穫において集落の誰もが参画できる仕組みを構築し、コミュニティの協働を促進する。

有識者からの取組に対する評価

■各事業（殊に経済的側面）の推進と共に、まずはSDG s の認知度と行政体内の推進体制の強化への注力が必要であると思料する。

■SDG s の取組計画がやや散文的と感じる。SDG s の取組を町の総合計画等に反映させることが望まれる。

■KPIの設定について改善されることを期待する。

SDGs未来都市等進捗評価シート

2019年度

1．全体計画

	取組名	ターゲット	指標名	当初値	2019年	2021 年	達成度（%）	進捗状況や課題等（定性指標や補助指標等を含む）
自治体SDGsの推進に資する取組の2021年のKPI	① クリエイティブファクトリー構築事業	8.2, 8.3	島内在住のテレワーカー数	2018年度 0 人	2019年度 5 人	2020年 10 人	-50% 0% 50% 100% 50%	Webデザイナーとして必要なデザインスキル、制作スキルを身につけ、継続的な仕事の受注につなげる為の団体を設立した。今後、そのような団体が得たスキル等を町に具体的にどのように還元し、新たなテレワーカーを増やしていくかが課題となっている。
	②「おかげさまサイクル」でつなぐエコビレッジコミュニティの再興	11.7	シマ（集落）の高齢者の自生植物栽培への参画者割合	2018年度 0 %	2019年度 9.4 %	2020年 50 %	-50% 0% 50% 100% 19%	集落支援員を中心に少人数ではあるが、畦道の草刈りやヨモギの植え付けを実施している状況である。今後は、参加人数を増やしていきたいところだが、まずは住民の賛同を得ることが課題となっている。
		14.1, 14.2	赤土等の流失防止ほ場等数	2018年度 0 件	2019年度 1 件	2020年 3 件	-50% 0% 50% 100% 33%	集落支援員のコーヒー農園において実験的に赤土等の流失防止を行っている。今後、流出防止効果が確認されれば箇所を増やしていく予定であるが、まずは住民の賛同を得ることが課題となっている。